

第6期第3回河内長野市民公益活動支援・協働促進懇談会 会議録

日 時：平成27年1月9日（金） 10:00～12:00

会 場：河内長野市役所5階 501会議室

出席委員：久、湯川、大谷、金子、佐川、芝本、杉岡、土橋、永田、野田、山崎

事務局：市民協働課：松浦、長野、杉本、山田、住田

1. 開会

2. 案件

① 市民公益活動支援センターの開館時間等について

3. 閉会

① 市民公益活動支援センターの開館時間等について

※ 本日資料1、2に基づき事務局説明

会 長：色んな意見があって、別に今のままでも良いという意見もあると思いますので、それも含めて意見交換をしていただければと思います。

委 員：公設民営という河内長野市の場合は、運営に関わる施設の維持管理費は、どこが負担しますか。

事務局：市が委託料という形で、支払っています。

委 員：そうすると、9時から21時まで12時間開館していて、利用頻度の少ない曜日は、一番基本ベースになる光熱費などを、いわば市が無駄な拠出をしているというわけになります。使っていない曜日を時間短縮するか休日にするとか、ロスができるだけ抑えるということを考えて、検討していけばどうかと思います。

会 長：そのあたりは、今日は、る一ふらざから佐川さんが来ていただいているので、第三者評価の時にも光熱費の節減努力もされているとお聞きしているのですが、例えば、先程ご指摘があった夜間使っていない部屋の電気はまめに消灯されているとかを聞かせていただきたいと思います。

委 員：貸館では、使っていないミーティングスペースとかには、空調は絶対に入れないですし、利用が終わったら消灯しています。今年からはビニールカーテンを使って、暖房の空気が外に行かないように、節電ということで取り入れました。夏も緑のカーテンをするなど、節電に取り組んでいます。ただ、利用されている時には、空調は使います。利用者数が年々増えてきて、2階の貸ブースも、週に1回

必ず使っておられるので、電気代が上がってきているのは確かです。

会 長：何を確認させていただきたかったというと、利用者のいない時に電気とかの熱エネルギーを使っているのは事務室くらいで、あとは止まっているということです。

委 員：利用の少ない時間帯や曜日があるということですが、少ない原因については、どのようにお考えですか。

委 員：土日には、自分の活動をされている団体があるので、会議を持たれるのは、平日になってしまうということで、土日の利用は少ないのかなと思います。

会 長：利用者に対する利用時間の満足度調査はやっていませんか。

委 員：アンケートを年に1回取っていきまして、利用時間のことを書いていたりされます。そこでは「今のままで良い」となっていますが、自分たちが利用している時間が開いていればそれで良いという感じで受け止めています。

委 員：私も他のボランティア団体に関わっているのですが、その日のその時間に確実に使えるのかどうか分からないというところで使いにくいなという意見は割とあります。私的にラブリーホールを土曜日や日曜日の夜に使う時は、ほとんどいっぱいです。なので、なんで空いているのかなと感じました。

会 長：私は、センター検討委員会の時から、ずっとご説明しているのですが、近くにあるキックスとこのセンターの差別化をどう考えるかということで、きちんと予約して使える部屋はキックスにあるので、ぶらっと使えるような形での使い方を選択しようということになりました。先ほどのご質問やご意見からいうと、予約して使えるようにすると、今度はキックスとの関係が難しくなるので、このセンターだけで考えるのではなく、キックスの関係とトータルで考える方がいいのではないかというのが、この河内長野の立地の特性かなと思います。逆に、堺の場合は、社協とコーナー（センター）が上手く組み合わせながら使われているので、フリースペースは、社協さんに任せておられます。堺は堺でユニークな使い方をされていて、コーナーは相談業務の部分が主になっています。

副会長：利用が少ないとはいえ、利用する方をどう考えるかということと、キックスとの関係では、キックスをご紹介する形になるのかなと思いました。私は、センターというのは、あくまで相談とかソフトの面の支援だと思っています。ハードの面というのは、それがあから来てくれて、四方山話をしながら相談してくれたりして、関係性というのが生まれてくるのかなと思っています。今回の分析は、ハード面の分析しかしていなくて、相談は、どの曜日が多いのか、土日はどうなのかと思いました。堺の場合も、土日は若干少ないことは少ないけれど来られます。

やっぱり、いつでも開いているという安心感は、団体さんにとってはあると思っ
ていて、そのあたりをどう考えるのかは、話し合わないといけません。

会 長：そのイチという利用を少ないとみるのか、重要なイチなのか。もしかすると、全
て会員がお勤めで日曜日にしか開けないという団体さんには、ここが休館される
というのは、致命傷になってしまうこともあるので、数だけではなく質的なこと
も見ていく必要があると思います。例えば良いか分かりませんが、コンビニも深
夜営業は絶対に赤なんです。でも本部の方が閉めさせてくれず、24時間営業と
いうのを売りにしながら、赤字覚悟で深夜も開けているというところがあります。
湯川さんの話にもあったように、開いていることに対する安心感みたいなものも
あるので、ゼロになっても開け続けなければならないという考え方も対極として
あるのではないのかと思います。今日はフリーディスカッションで色々思いをお
話いただけたらと思います。利用されている側の話も伺ってみたいと思います。

委 員：3つの観点から考えないといけないかと思います。1つはコストの問題で、使っ
ていないところに張りついているのは無駄なコストですから、これは切っていけ
ばいいと思います。もう1つは裏返しで、運営会社の方は、そこで働いて収益を
上げていらっしゃるの、その立場からも考え、運営を配慮しながら時間をどう
するかを考えなくてはいい。もう1つは、ユーザーからの立場。このセン
ターは、ボランティアをされていて、この施設を使い慣れた方の利用が非常に多く、
逆に言えば、飛び込みの人は少ないです。先生がおっしゃったコンビニは飛び込
みのお客さんばかりです。一般の方に焦点を合わせるのか、ボランティアの方
に焦点を当てるのか。ボランティアの方は、女性の方が多いです。
土日の夜間の利用が少ないというのは、一般的に見ると、公的な機関でも私的な
機関でも土日は休みというのが大前提になっています。私もセンターを使ってみ
て、土日の9時まで開いていることにびっくりしましたが、慣れてくると非常に
便利です。だけど、果たしてそこまでサービスする必要があるのかのどうかとい
うのも考えなくてはいい。私の結論から言うと、何曜日を休みにするかは別にして、夜は切っていい。ニー
ズがあるときは申し込みがあればお付き合いします。夜7時8時に飛び込みで行
ってボランティア活動をしようかという人は、まずゼロと考えていいと思います。

会 長：私も川西市のセンターの管理をしていますので、同じような立場ですけど、予約
制というのはなかなか難しいです。例えば、1週間前に予約されたとして、どの
スタッフをその時間帯に配置するのかというのは、管理をしている側からすると
手間がかかります。先ほどの話にあった開館時間が少なくなるということは、人
件費をカットするということになりますので、予約をされて臨時に入ってくる
という時の人件費をどうするのかという問題もあります。そこを開けておいてくだ
さいと言われた方が、実は管理の方はやりやすいというのが、管理側の立場です。

委員：前に2階の事務スペースを借りた時に感じたんですが、借りている立場からすると、いつでも行けるといふ方が使いやすいです。本来は、休みは無い方がいい。次に、どの曜日を休みにすればいいのか。そういう考え方の方が利用者は助かります。

委員：センターを開館して、委託事業を始められてから、数年が経っています。当初のボランティア団体には、簡単に使える場所がなかったのだから、大変有効な場所になったと思います。そこで、団体同士の交流も図れましたし、キックスをお互いが活用して、色んなイベントもできるようになりました。でも、そこからボランティア自身がそれぞれ成長なさってきましたし、色んな面で節約することも含めて、見直しは大事なことだと思います。今まではこの時間まで開けていて、1人でも使っている人がいるから、今までどおりというのではなくて、今、制約を受けてきている時代だと思います。なかなか日曜日までは有効に使えない時代になってきていると思います。その時は、はっきりとお休みということで、前もってお知らせできることです。

やはり、市の財政も厳しいので、私たちも厳しい思いをさせられています。社協さんも厳しい思いをしておられると思いますので、それをお互い共有していかないとダメじゃないかなと思います。みんなで一緒にやろうという協働という意味から考えて、お互いもう少し今までの経験を踏まえて、もう一歩成長していかないとダメだとは思っています。

委員：今日お話を聞かせてもらって、センターは、ぶらっと来ても使える施設なんだと知りました。私たちのボランティア団体は5年目で、このセンターに登録して団体になりました。最初、ミーティングスペースを使ってくださって良かったですよ、と言ってもらいましたが、いざ朗読の練習で使おうとすると、ここは他の団体も使われるから、あんまり大きな声を、と言われ、ここは使えないねとなってしまいました。ぶらっと来ても使えるというのを存じ上げなかったのだから、使い方がよく分からないというのが本音です。

今、どの視点から見るとかによって、色んな意見があるなと思っていて、数字を見てどうしようかという発想も良いのだけれど、数字を多くしていくための努力というか、一歩一歩、最初に行ったときからずいぶん様変わりをして、団体同士が交流するように努力していることが分かるので、もっと上手く活用すると、数字ももっと上がると思います。具体的にどうしたらいいかというのは分かりませんが。

会長：先ほどのお話でいうと、朗読サークルみちさんが朗読の練習をしていたとしても、周りの人がみちさんだったら私たちが我慢するよと言ってくれるといいんですが、嫌となると、今後は音を出してはダメですよということになってきます。そこをルールで縛っていくのか、あるいはお互い様という気持ちの中で使い合っていくのか。ルールの方で縛ると、利用のハードルがどんどん上がってしまっていて、利用

団体も減るといふのもあるのかなと思います。

会 長：センターの当初の目的は、優先利用をしたい時は、キックスへ行っただき、お互い様という関係の中で使えるようなところとして運営をしたいというのが目的でした。スペースが開いていない時も、お互い様の気持ちで譲り合ひましょうというのが原則だったので、開いていないから帰るのではなくて、お声掛けの中でお互いの調整機能を働かせられないのかなというのが目的でした。

委 員：市の方は、コストを抑えたいためにやっているのですか。予算が増えてもいいというのと、抑えたいというのでは、考え方が変わってくると思います。

会 長：その前に、公共の話の中で、効率性というのが出てきますが、それはちょっとどうかと思うところがあります。そもそも公共サービスというのは、民間が手を出さない部分で、赤字覚悟でやっていかななくてはいけないという部分もあるので。そう考えた時に、効率性だけで判断をするのは、どうなのかというのがあって、今日も色んなお声があるので、意見を出していただきながら、お互い違う意見も吸収しながら、接点を見つけ出したいと思っています。市側の立場としたら、どういう気持ちなのかというのがご質問だと思うのですが。

事務局：指定管理は期間がありますので、その時に仕様書などの見直しをさせていただいているのが現状です。今回、28年度に指定管理の期間が変わりますので、27年度に仕様を見直さないといけないということで、当初のお話にもあったように、利用状況とかも踏まえて、見直すところがあれば見直せばどうかというのがございましたので、懇談会で議論いただきたいというところがございます。一般の利用の中でも、夜間に電気がついているという声も多少ありますし、会長が言ったように、結局見直さないということも有りですので、そういうところも踏まえてご議論いただけたらと思います。

会 長：この懇談会の役割は、市が勝手に決めず、皆さんのお声を聞きながら決めていくという、ある意味このやり方そのものが協働であるということですので、早めに皆さんのご意見を賜りながら、市としての方針を定めたいなということですよ。

委 員：利用する団体の内容を精査して、声や音を出してもいいよという団体が利用する日を制度化してみてもどうですか。そうすると、遠慮気兼ねはいらないと思います。この曜日はこういう団体だったら使えますというふうに、色分けしていけば良いと思います。

委 員：結局、そうなってくると、予約ということになってきませんか。キックスとの差別化とおっしゃっていましたが、金額の面でも差別化できていますよね。普通に会議を行うスペースが欲しい時に、行って空いているかどうか分からないとこ

ろに、飛び込みでは会議には行かないので、全日開けているのは良いことだと思いますが、予約できないというのは利用者からすると難しいということになっています。逆に、キックスなら、毎週会議をするような団体からすれば使いやすいですが、高額な費用になってきます。その時点で差別化は出来ている気がします。

会 長：ここの施設が一番難しいなと思うのは、ミーティングスペースが一定の広さがあるということなんですね。センター検討会の時も、ミーティングスペースをどうするかはかなり時間をかけて議論しました。予約制にしようという意見も出ました。でも、それではキックスと一緒にになるので、ここもフリーに利用できるようにした方がいいのではないかということになりました。パーテーションが入っていて、大きなミーティングもできるし、小さく分けてもできるようにして使ってもらえるようにしようと考えました。

もう一度ここを予約制にして有料にしようという考え方もないことはないですけど、当初は議論の末、予約制にはしないというようにしたので、利用率を上げていこうと思ったら、予約制で有料にして自由に使ってくださいというふうにすればいいと思います。そこの話が錯綜するので、検討会でもすごく議論しましたし、ここで議論してもそう簡単には答えは出ないと思いますが、せっかくの機会ですので、もう一度議論してみてもいいかなと思います。

委 員：予約制のことにに関してですが、今現状使っておられる方は、最初のキックスと差別化したコンセプトの思いで来られている方なのか、それとも定例的に、この曜日のこの時間はこのメンバーしかいないので使えるだろう、ある意味、常習化した予約的な感じで使われている方が多いのか、実際はどうですか。

委 員：予約されずにくる団体で、しょっちゅう来られる団体は、この時間なら空いているだろうなという感覚で来られているように思います。でも、大人数でどうしてもこの日にすると言う場合は、キックスを予約して会議をすると聞きます。

委 員：今のお話を聞くと、予約せずに利用するというニーズがあったということですね。

委 員：定着しているからかもしれませんが、そうになっています。

委 員：その日のその曜日は、十中八九使えるだろうという予測で、来ているだけという気がします。

委 員：もしも、会議の日を決めて、使えなかったら困るのではないですか。

委 員：すごくいっぱいになったこともあります。その時はワークスペースに椅子を並べて会議されて、それで入りきりました。あふれて帰らないといけなくなるようなことになったことはないです。

会 長：ずっと当初の思いの話をしていますが、今までにない人間関係を作りたいという目的もありました。ルールで縛ると、とても楽なんです。今の世の中は、「効率」を言いすぎているので、いかに無駄なく動くかという話になってしまいますが、お互い様という気持ちの中で、極端に言うと、ルールを作らなくても秩序が保てる、そういう空間がここででき上がってくると、新たな市民同士の関係も生まれてくるのではないかという期待もありました。

委 員：私は、る一ぷらぎに団体の代表としていくことが多々ありますが、る一ぷらぎに来ているメンバーの方は顔見知り同士で、最初は中に入りにくいと感じました。けれど、先生の話をお各団体の代表者が良く分かって、会員にきちんと伝達をしていけば、個々の会員ももっと行きやすくなるのではないかと思います。そうすると、もっと利用率が上がるのではないかと。一人でぶらっと行きやすい場所かと言われたら、そうかなあという感じなので、各団体の代表者が、会員に伝達する必要があるのではないかなと思いました。

会 長：そのあたりは、もう一度同じような扱いをすることになった暁には、きちんと皆さんにご理解をいただく必要があるかなと思います。先程のルールの話で、川西市の場合の話をさせていただくと、市が管理をしている時には、交流スペースに「30分以上は使わないでください」という貼り紙がしてあって、我々が指定管理として引き継いだ時に、張り紙をはがしてしまおうということになりました。使いたい時は、先に使っている方に一声かけていただいて、お互いが調整しあうという仕組みづくりをすれば、張り紙をしなくてもいけるのではないかという発想でした。そして、「あの人たちを何とかしてください。」ということは事務所に言わないでくださいと。お互い同士の問題なのだから、お互いで調整できる関係づくりを基本にしました。そうするとルールも少なく済みます。最近、誰でも使えるということで、増えてきたのが高校生。目的外なので帰ってもらってもできますが、うちはしていません。その子どもたちが、5年後10年後ボランティアをするときに、あそこにセンターがあったよね、みたいな話になって欲しいなと期待しています。ルール化をしていくのか、お互い様の関係でやっていくのかで、かなり使い方は変わってくるかなとは思っています。

委 員：貼り紙を外した後の川西市の結果はどんな感じですか。

会 長：トラブルは起こっていません。

委 員：河内長野の場合はどうでしょう。読み聞かせでも声が漏れるから、横で会議をする人からすれば邪魔です。当初は、私も読み聞かせの練習で使わせていただきましたけれど、自然に排除されていきました。検討会がおっしゃっているのは理想なんですよね。数年が過ぎて、団体が仲良く交流をなさって活用されていますが、

使いたいなと思っている人が使えなくなっているということも事実です。お互い様というのは、協働の基本であり、お互い様でやっていかなかったら人助けもできません。大事なものを近代化と同時に見落としてしまったので、それを一緒にやろうということから始まったと思います。でも、同じような顔見知りの方たちの輪は作って行けるけど、そこに入れなくなっている団体さんがいるのも事実です。そのあたりは、長期的に考えていかないといけません。輪をどのようにつなげていくかは、検討課題ではないかと思います。

さっと行けて使えるのも理想ですけど、それが難しいのも事実なので、予約しなくてもいいのと予約しないとダメなので差別しないで、お金も発生しますし、音を出しても大丈夫な施設と少しぐらいの声は漏れてもお互い様という施設という、もう少しやわらかい差別にしていかないとキックスと比べられないと思います。

会 長：市の方からも投げかけられているように、数年間使ってみて、今後はどのような使い方をしていけば一番良いのかを、改めて考えていきたいと思います。私が申し上げているのは、当初の考え方を情報提供しているだけの話ですので、状況が変わってきていることから、もう一度リセットしようということも有りだと思います。先ほどミーティングスペースの使い方が難しかったというお話は、交流スペースとミーティングスペースの差別化ということも検討しました。自由に使えるのは、交流スペースがあるので、ミーティングスペースはキックスのように予約してもらおうという話もあったことは事実です。でも検討会の中では、ミーティングスペースも交流スペースよりも少し大きめの自由な使い方ができる使い方でいきたいと思いますというのが、当初の検討会の中身です。そういう意味では全体的にもう一回見直す機会かなと思います。

委 員：月に2、3回会議をする団体にとっては、時々使えなくなるというのがありました。だから、よそに行ってしまった。いつでも行けるというメリットは、事務的なことをするにはすごく良いところですが、会議をするにはちょっと違うと思います。そのあたりが難しい。何かクレームとかはなかったですか。

委 員：予約ができないから、使い勝手が悪いというのは確かにあります。キックスは有料でセンターは無料なので、センターを使いたいけれども、予約ができないのでキックスを予約するという声は聞きますが。先ほどから事例が出ているのも、貸館業務のことですが、湯川さんがおっしゃられたような相談業務をメインに考えると、日曜日にふらっと来て相談という方はまずいないので、日曜日はワークスペースだけか、少ない利用のミーティングスペースだけのために開けていて、運営側でも若干もったいないかなという気はします。

委 員：運営する側としては、日曜日は閉めた方がいいという考え方なんです。

委 員：貸館を利用している人のために開けるのならば、それはありだとは思いますが、

ごく少数の方のために開けて、メインである相談業務がないのであれば、日曜日ならキックスが利用できるのでは、それはどうかなというふうには思います。

委員：今すぐ結論を出さなくてもいい訳ですから、ルール化した時のメリットと、今までのようなやり方でした時のメリットを、細分化したらいいと思います。そして、3つのスペースの有効活用を今一度考え直してみたらどうですか。例えば、会議は何人かの人が集まるので、日時を予告して、出席者の同意を得てする訳ですので、そうすると予約制にすることもいいのではないかと。また、会議の内容も細分化して、何曜日は音を出してもいい日ですよと周知すると、浸透していくと思います。やっぱり効率的な運営をしていかないと、いくら市がお金を出していても予算に限度があるので、その範囲内で運用していくような方法を考えないといけないと思います。

会長：先程からキックスとの関係の話をしてはいますが、団体が集まったり演奏したりするスペースはもっとあります。極端に言うと自宅もそうです。そういうものも含めて、センターの位置付けにしていくと、また違う角度から考えられるのかなと思います。そもそもの目的は、うちの家でも解放しようと言っていた人が、あそこが空いているならいこうよという形で来てほしい。でも、たまたま空いていなかったら、仕方ない、今日は誰々さんの家でしようという感じで使えたら良いよねというのが目的でした。でも、そうじゃないということなら、予約制にするのも有りかなと思います。ただ、個人的には、予約制で無料というのは、キックスとの兼ね合いで難しいかな。予約で無料で一部屋しかないというと、予約が舞い込みます。

委員：逆にそうなってくると、ぶらっと感が無くなりますね。

会長：事務局とすれば、今日の意見を再度持ち帰っていただいて、いろいろ整理して出していただいて、次に出すということでもいいですか。あるいは、今日ある一定の方向性を出した方がいいですか。

事務局：今日は方向性が出ないと思うので。

会長：今日のような形で、色んな角度でご意見賜って、整理をしていただいて、次回にまた提案していただき、佐川さんには、利用者の声を今日の話も含めて聞いていただけるよう試みていただきたいと思います。あるいは、皆さんの方から、センターのこんなデータが欲しいとか、こんな声が欲しいというのがあれば、次回までに用意できるのではないかと思います。

ついでですので、私も指定管理している立場から言うと、労務管理は富田林市方式が一番すっきりします。9時半から5時半。8時間勤務になりますから、1人で済む。今までの河内長野市のやり方だと、2人ではなくて1.5人になるんで

す。この0.5という中途半端な雇用は、すごく難しいです。夜間だけ入ってくる人は、なかなか難しいです。

委員：運営会社の立場でという視点は、必ず入れなくてはいけないと思います。そして、コスト的な視点と、スタートの時の理念も大事にすべきだと思います。最初は、コストがかかって何をしているんだろうと思ったけれど、理念を聞いてみると、河内長野市に一ヶ所ぐらいあっても良いのではないかと思います。ただ残念なことに、どこまでその理念を知っている人がいるかといえば、10本に指に入るぐらいしかいないイメージがあり、そここのところのやりとりだと思います。あと、運営される会社の声を吸収できるセクションがないので、それを大事にしてもらいたいです。

副会長：気になっているのが、例えば土日が閉館になると、それだけ予算が減らされるということです。予算が減ってから増やすのは、すごく難しいことだと思っているので、今回の決断は、かなり大きいと思っています。やはり、中間支援としては、人材確保をしようと思ったら、それなりの給料をお支払いしたいところだけど、安く来てもらっていて、その代わりに、年齢層が高くないと続かないというのが正直なところですね。20代30代を雇用するためには、それ以外のこともやらなくてはいけなくて、私自身は多忙だと思っています。これからの河内長野市を長い目で見て、関わってもらえる若者を育てようと思った時に、予算が減るのはかなり大きいことではないかなと思っています。人材育成の面では、予算が減るとするのは大丈夫なのかと思います。

会長：減らす労力以上に増やすことの方が大変だということですね。一旦確保したものは、そのままにする方が、将来の見直しの時には有効かもしれないですね。

委員：若手の育成ということでは、今、るーぷらぎに若い男性が1人いらっしゃるんです。そこに若い人がいるというだけで、活気があっていいなと思います。若手の人をどんどん入ってもらおうと、場所の活性化にもなるので、そう言われたら減らすのは考えないといけないなと思います。

会長：うちの学生でも、こういうセンターで働きたいというのはいっぱいいます。ところが、給料が安くて、30前後までは頑張れますが、30歳に差し掛かる頃に、この給料で家庭を持って子どもを養うことはできないということで、辞めてしまいます。本来、指定管理の立場で言わせてもらおうと、2倍の人件費を払ってほしいと思います。そこまでは難しいかなということで、NPOが安請け合いしてしまっているのが、今のセンターの状況です。年収を見てもらったらすぐ分かりますが、こんなんでも若い人たちは働けないという話です。

会長：今日はこのあたりで、この案件はよろしいでしょうか。また次回、事務局の方で

整理をして、出していただきたいと思います。

事務局：今回の議論の論点や意見を整理して、次回の懇談会に投げかけて、みなさんのご意見を再度聞かせていただきたいと思います。冒頭に言いましたように、ここですぐに決めるということではなくて、指定管理のスケジュールから言いますと、27年度の半ば、夏くらいまでに仕様書を固めて、事業者の選定のスケジュールに合わせます。3月下旬に意見を取りまとめて、それを元に、次の5年間の指定管理の仕様書づくりに取り掛かりたいと思っています